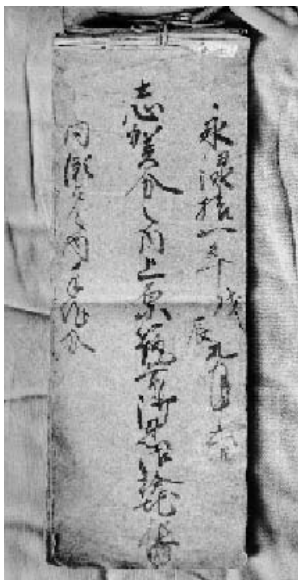


えいろくじゅういちねんうえはらちくぜん ご おん ご けん ち ちよう  
 43 永禄十一年上原筑前御恩御検地帳



指 定 市有形文化財 昭和49年12月 1日  
 所在地 瀬 戸  
 所有者 柳 沢 讓

永禄11年（1568）に、武田信玄の部将で瀬戸八反田城主だった上原筑前守が信玄から知行された領地のうち「日村郷」・「志賀分」・「瀬戸分」の田畑および屋敷を検地した記録である。

この検地帳は秀吉が行った、いわゆる太閤検地より約20年ほど早いもので、佐久地方に現存する検地帳としては、最も古いものとみられ、貫高と石高の両方が併記されていて、検地が貫高から石高へと移行した過程を知る上で重要な存在である。

体裁

- 一、大判和紙を二つ折りにした横帳2冊からなっている。
- 二、表書

1. 永禄十一年戊辰 加々美神五右衛門尉  
 同村郷上原筑前御恩御検地之帳  
 九月十六日 相良三郎左衛門尉  
 鷹野清右衛門尉
2. 永禄十一年戊辰九月十六日  
 志賀分之内上原筑前御恩御検地之帳  
 同瀬戸之内手作分

三、2の裏書

御奉公 加々美神五右衛門殿  
 相良三郎左衛門尉殿  
 鷹野清右衛門尉殿